

スローターゲイル・オンライン -
S l a u h t e r G a l e ・ O n
l i n e -

黒野刻斗

ネットで突然、SGOスローターゲイルオンラインはログアウト出来ないということで話題となり、奇しくも主人公の緋ヶ咲和爾はSGOに興味もってしまい、緋ヶ咲和爾はログインしてしまう。時を同じくして、当時8歳だった桐ヶ谷和人もSGOへログインしてしまう。

そして今、緋ヶ咲和爾たちの命を懸けた、現実世界へ戻る為の戦いが始まる！

目次

スローターゲイルオンライン・SGO 篇「プロローグ」	1
01 彼の名は緋ヶ咲和爾	1
スローターゲイルオンライン・SGOの执行官篇	5
02 殺戮技能 スロータースキル	5
03 異常なるスキル 执行官	10
04 第1層攻略会議と黒い服の女	15
05 正体と攻略	19
06 执行官の日常	23
07 二年後	28
08 加速仮想世界のエンディング	32
SGO Chaos LOVE カオス・ラブ編	37

アブノーマルなラブコメのスタートオオオオオオ！………

スローターゲイルオンライン-SGO-篇「プロローグ」

0..1 彼の名は緋ヶ咲和爾

皆さんこんにちは！

初投稿をする、黒野刻斗です。！

一人の男の子が病室に横たわっている。

正確に言うなら、2017年4月5日で中学三年生になる男だ。

その男の名は緋ヶ咲和爾（ひがさきかずじ）と言う。

彼は、VRMMORPGと言う種類のゲーム、Slaughter Gale・Online スローターゲイルオンラインに閉じ込められている。

その原因は、3月25日から4月5日までの春休みの間に買ったスローターゲイルオンライン、又の名をSGOに在る。

スローターゲイルオンラインは、タイムアクセルという、VRマシンで行うゲームである。SGOは文字通り、殺戮をVRMMORPGとする、というもので在るが、殺戮は殺戮でも人を殺すのではなく、モンスターを殺すのである。

尚、舞台は~~SGO~~加速仮想空間~~SGO~~(パラドキシカルタイム)と言う世界である。

プレイヤーはパラドキシカルタイムから~~SGO~~自発的にログアウト出来ない~~SGO~~此が、緋ヶ咲和爾たちをSGOに閉じ込めている原因である。

「そして、パラドキシカルタイムは全てが加速されている、故に、痛覚つまり、五感・時間が加速されているということとは、動きさえもが通常の2倍である、というのも、全てが加速されているが故に、反応速度がログアウトした時に異常になるのは当たり前となる、詰まるところ、このSGO事件によって異常者が増えるのは予想されて当然だろう。」

と緋ヶ咲和爾は考察した。

緋ヶ咲和爾の前にはSGOにフルダイブしたことを教えるメッセージがでている。

画面は切り替わり、アバター作成画面となっていた。

髪色はオレンジ、身長196cm、髪型はALOのキリトの様だった、目の色は蒼色と、なかなか良い仕上がりとなった。

緋ヶ咲和爾のプレイヤーネームはカズとなった。

カズこと緋ヶ咲和爾は本格的にSGOへフルダイブした。

カズ「ここは何処だ？」

女性NPC「やあ、新人さん、この町の名は海燕町というのよ」

カズは早速ログアウトボタンを探したが、見つからなかった。

カズ「やっぱり、ネットで言ってたとおり、ログアウト出来ないなあ」

カズはふと、アイテムストレージをタップして中を見た。

初期装備しかないはずのアイテムストレージになんと、鏡が入っていた。

恐る恐る、カズは鏡の中の自分を見ると、なんと顔が現実世界のものと同じになっていた。

現実世界のカズの顔は中性的な、具体的に言うなれば、キリトの様だった。

カズ「・・・これ、リアルの俺だよな・・・」

カズは意外に冷静だった。

カズは「とりあえず、この町のマップの開示度を100%するかあ」と、ポリポリと頭を掻きながら言った。

黙読、有り難う御座います！

多分、次の投稿は今週中だと思います。

スローターゲイルオンライン-SGOの執行官篇-

02-\$殺戮技能\$-\$スロータースキル-

今回は殺戮技能\$-\$スロータースキル\$-\$のお話です！

ではでは！どうぞ!!!

カズは町の北側にある、武器屋にいた。

カズ「すいませーん、あの一、この銃って何円ですかあ？」

店番NPC「円って何だい？」

質問に質問、これは会話になっていない。

すると、店番NPCはこのSGOの世界のお金のことを説明し始めた。

店番NPC「この世界のお金はキルって言って、自分が殺した生物×2のキルがもらえるんだよ。見たところ、君はまだ100キルしかない見たいだね。おじさ

んの50万キルをあげるよ。あ、あとその銃、あげるよ！」

カズ「あ、ありがとうございます！」

カズがもらった銃はありきたりの銃であった。

カズはすぐさま、もらった銃を右手のスロットにセットした。

しかし、もらった銃はホルスターに納まっている。

理由は明確だ、システム上はモンスターを殺戮する為の装備だからだったからだ。

もらった銃の名前をふと、カズはみた。

銃の名前は<GM9>と、まあまあな名前だった。

カズ「試し撃ちでもするか・・・」

そう言い、カズは町の外へ向かった。

カズは銃にいつの間にかハマっていた。

試し撃ちのはずが射撃のスロータースキルの熟年度を1000も上げ程、ハマってしまった。

スロータースキルそれは、殺戮技能である。

射撃のスロータースキルを上げれば、最強の新しい銃がもらえるらしいという噂

が蔓延していた。

カズは疲れたらしく、宿で寝ている。

そこへ、一人の男が現れた。

男「カズ君・・・」

カズ「だ、誰だ？」

カズは起きてしまった。

男「俺だよ」

カズ「君は・・・まさか、桐ヶ野佐久夜？」

男「そうだよ、僕は桐ヶ野佐久夜だよ。僕のIDはSAKUYAだよ。」

カズ「やっぱり、サクヤ君だったんだ・・・」

サクヤ「カズ君、今から一緒に狩りにー」

カズ「明日なら良いけど、今日は眠いから無理だよ」

サクヤ「あ、あとフレンド登録しといて。今から、フレンド依頼するから。」

カズ「オーキードーキー」

サクヤ「なにそれ？」

カズ「OKを崩した言い方だよ。外国じゃ意外とオーキードーキーってよく使うんだぜ！」

サクヤ「へえ、そうなんだあ」

カズにフレンド依頼が届いた。

サクヤ「カズ君！フレンド依頼届いた？」

カズ「届いたぜ！」

サクヤ「フレンド登録しといてね！」

カズはサクヤをフレンド登録した。

カズ「フレンド登録しといたぜ！サクヤ！」

サクヤ「うん！それじゃあ、またね！お休み！」

カズ「お休み！」

カズは明日に備える為に寝た。

翌日、カズは5時に起きた。

カズ「ん？何だ、これ？」

カズは驚いている。

無理もない。

なぜなら、習得したスキルに見覚えのないスキルがあるのだから。

次回予告！

見覚えのないスキルの正体が明かされるッ！

次回も今週中だと思いまあゝすう！

あと、これを書き終わったらこれの番外編か、新シリーズを書きます！

03 異常なるスキル～執行官～

今回は前回、予告した、見覚えのないスキルについてです！

ではでは、どうぞ！

カズが手に入れた見覚えのないスキル、それは執行官というスキルだ。

カズ「俺が思うに、このスキルはPKを行ったプレイヤーを殺しても良い、つまり、プレイヤーキルをしたプレイヤーを殺しても罪にはならないというスキルだと思うんだけど、サクヤはどう思う？」とサクヤに話しかけた。

サクヤ「うーん、わかんないなあ。少なくとも、執行官っていうからには、そうだと思うなあ。」

女「君たち、そこで何してたの？」

いきなり話しかけてきた、女にカズとサクヤはハモった。

カズ&サクヤ「だッ！誰だ貴様はッ！」

ミュカ「ヒドイなあ、ウチを貴様だなんて。あ、そうだ、まだ名乗ってなかったね。ウチは\$ミユカ\$。本名は牧瀬海由華。二人ともよろしく！」

カズ「お、おう。よろしくなミュカ！」

サクヤ「よ、よろしくミュカ・・・」

サクヤとカズにフレンド依頼が届いた。

ミュカ「フレンド依頼、送ったから、フレ登録しといてね！」

カズ「オーキードーキー」

サクヤ「OK」

サクヤとカズはフレンド依頼を承認した。

カズ「フレンド登録しといたぜ！」

サクヤ「俺も、しといたぜ！」

カズはふと、装備している銃の名前が変わっているのに気づいた。

銃の名前はなんと、支配者を意味する\$Dominator(ドミネーター)\$になっ
ていた。

カズは「何だ、これ？ま、良いや。」と呟いた。

サクヤ「ん？何かあったのか？」

カズ「何でもない。」

すると、そこに一人の男の子が現れた。

男の子「やあ、君たち俺と、フレンドにならないか？」

男の子「あ、そうだ、まだ名乗ってなかったんだ。えっと、俺の名前はキリト。
よろしく！」

カズ「お、おう。」

サクヤ「Ok」

サクヤとカズにフレンド依頼が届いた。

直ぐにサクヤとカズはフレンド依頼を承認した。

キリト「カズのスキルってなんか変だね。まあ、俺もだけどね。」

カズ「それは、どういう意味なんー」

カズの言いかけた言葉を制するように、キリトは言った。

キリト「それは、見れば分かるよ」

そう言うときリトは、黒い片手用直剣と白い片手用直剣を抜いて、蜘蛛型モンス

ターに、~~SS~~スターバースト・ストリーム~~SS~~を当てた。

直後、キリトのスターバーストストリームをくらった蜘蛛型モンスターは、ポリゴン片となって消え去った。

カズ&サクヤ「なッ！何だよ今のッ!？」

キリト「二刀流奥義―スターバースト・ストリーム―」

カズ&サクヤ「・・・」

キリト「どうだい？わかっただろう？」

カズ「実は明日、第1層の攻略会議をするんだけど皆、どうする？」

キリト&サクヤ「どうするもなにも、行くに決まってるぜ！」

ミユカ「ウチも行くよー！」

カズ「よし！じゃあ、明日の朝の6時に俺の部屋に集合だッ！」

次は第1層の攻略会議を書きます！

後、SGOの世界は319層の層で出来ています！

S G O は ~~謎~~ 謎の天才プログラマーによって 1 万人に無料配布されているゲーム ~~謎~~ という、設定となっています。

04 第1層攻略会議と黒い服の女

今回は第1層の攻略会議を書きます！

ではでは、どうぞ！

朝の6時。

現在は第1層の攻略会議をしているところである。

カズ「とりあえず、ミュカ、サクヤは後方支援で、俺とキリトはボスを殺る。んでもって、ボスにトドメをさすのは俺！」

サクヤ「んじゃ、俺は回復役をするぜ！」

ミュカ「うーん、じゃあウチはステータス強化を担当するよお！」

キリト「あのさ・・・トドメをさすの俺もしたいんだけど・・・」

カズ「べ、別にいいけど」

ミュカ「それじゃ、ウチは帰って寝よっかなあ♪」

カズ「お前、また寝るのかよ。」

サクヤ「てか、攻略会議中だっちゅーの！」

ミユカは「アハハ、ゴメンゴメン！」と笑いながら謝った。

カズ「明日は氣い抜くなよ！それじゃ、解散」

ミユカ&キリト&サクヤ「オーキードーキー」

ミユカは解散した後にフィールドに向かって行った。

\$\$\$サクヤ:視点\$\$\$

一方その頃、サクヤは見覚えのないスキルを習得していた。

サクヤ「なッ！何だよ、＜オーバード＞ってッ！」

驚くのも無理もない、オーバードというスキル等存在しないはずなのだから。

そして、サクヤは試しにオーバードというスキルをセットして、使ってみた。

サクヤは片手用直剣を抜いて持ち上げた。

ガシャッ

サクヤは蜘蛛型モンスターに向かって片手用直剣で一突きした。

サクヤ「セイヤッ！」

直後、蜘蛛型モンスターは奇声をあげ、ポリゴン片となって散っていった。

サクヤ「あれっ、おつかしいなあ、こんなに威力、高かったっけなあ。まあ、いいや。」

<カズ…視点>

カズは今、蜘蛛型モンスターに狙いを定めている。

すると、ドミネーターがしゃべった。

ドミネーター「脅威度が更新されました。脅威度 A+。これより執行します。エグゼキューションモード・ブレイク。」

殺戮マシンのドミネーターは、ガシャガシャと音を上げて、上部を展開した姿に変形する。

直後、蜘蛛型モンスターに向かって、青白いビームのようなものが殺戮マシンと化したドミネーターから射出される。

蜘蛛型モンスターは奇声を上げる暇も隙もなく、ポリゴン片となって爆散した。

カズ「やっぱ、俺のドミネーターは最強だな。」

カズ「さてと、飯でも喰うかあ…」

カズは酒場へ向かった。

カズは黒い服をきた女に「そのの、キミ…」と話しかけられた。

しかし、カズは無視した。

黒い服をきた女「そのの、キミ。。。聞こえないのかい」

カズ「聞こえてるさ」

黒い服をきた女「じゃあ、何で返事しなー」

黒い服をきた女を制するように、カズは「お前は誰だ」といった。

次は黒い服をきた女の正体と第1層のボス攻略を書きます！

05 ー正体と攻略ー

今回は女の正体とボス攻略を書きまあすう！

黒い服をきた女「少年よ、もっと先へー加速ーしてみないか？」

カズ「は？え？」

黒い服をきた女「私の名前は、ブラック・ロータス。黒雪姫とも呼んでくれ」
カズにフレンド依頼が届いた。

カズ「この、ステータス・・・あんた、いったい、何もんなんだ・・・」

黒雪姫「そんな、事より・・・早く、フレ登録してくれ」

カズ「お、おう」

カズはフレンド依頼を承認した。

黒雪姫「ありがとう」

黒雪姫は酒場をあとした。

カズは酒場から部屋へ帰って寝た。

翌日、6時。

カズはボス攻略に参加している。

ボスは容赦なく、カズへ斬りかかってくる。

ドミネーター「脅威度が更新されました。脅威度 S + 1・エグゼキューションモード・アタックブレイク。」

ドミネーターはガシャガシャガシャと上部と両側面の装甲を瞬く間にギリップへ移動させ、赤い装備を露にする。

次の瞬間、赤い装備がうねりを上げるとともに、赤く染まった閃光がボスを穿つ。
ボス「ゲオオオオオオオ」

ふと、ボスのHPゲージに目をやると、さっきまではほとんど減っていなかったHPゲージが一気に半分のイエローゾーンまでに減らされていた。

カズ「あと少しだ。サクヤ、キリト、ミュカ、あれを使うぞッ！」

カズ&サクヤ&キリト&ミュカ「エターナル・フォース・バーストッ!!!」

次の瞬間、赤、青、黄、黒の閃光がボスを穿つ。

ボス「グオオオオオオオ」

ボスのHPゲージは数ドットまでけずられた。

カズ「トドメは俺が殺るッ！」

カズ「赤き閃光よ穿て・・・朱雀」

深紅に染まった閃光がボスを穿つ。

直後、ボスはHPゲージを数ドットから0にまで減らされ、ポリゴン片となって爆散した。

そして、カズの前には、「コングラチュレーション」、「ラストアタックボーナス…執行者のスーツ」と大きく表示された。

カズ「お、俺が仕留めたのか・・・」

カズは喜びを抑えながら、アイテムストレージにラストアタックボーナスの「執行者のスーツ」入れた。

周りは一気に歓声に包まれた。

後ろから、「おめでとう」と声がした。

声の主は黒雪姫だった。

カズ「あれっ？お前もいたのか。」

黒雪姫「居たけど、攻撃する隙がなかっただけよ」

カズ「お、おう。そうなのか。」

カズ「とりあえず、第2層へのアクティベートを済ませるか。」

カズはそう、言うのと第2層の町「岩崎」へ、とアクティベートを済ませた。

更にカズは「さあ、かえって寝るかあ。」と、言っ自分の部屋へ戻ってしまっ
た。

カズ「これがデスゲームじゃなかったら良いのになあ」

と、言っ寝てしまった。

次は何の話をするか決まっていなくて、感想のところに、書いて欲しい話を
面白く書いてください！

06 執行官の日常

今回は少しのバトルシーンと楽しいひとときを書きます！

翌日、カズは12時58分に起きた。

カズ「…もう、こんな時間か…」

カズは宿に備え付けの冷蔵庫を開けた。

ガチャ。

冷蔵庫の冷気がもれた。

開けられた冷蔵庫の中身は、コーラ、水、パン、ケチャップ、マヨネーズ、醤油と、何処の家にもあるような、仮想世界ではあり得ない、現実でのありふれたものばかりだった。

カズ「今日は何を食おうかなあ」

悩みながらも、カズはパンとコーラを手取る。

カズ「やっぱり、朝はコーラとパンだぜ！」

一人でカズはそう呟いた。

午後1時32分。

カズは10のゴブリンと戦っている。

ゴブリン「グオオオオ」

カズ「おらァッ！」

カズはドミネーターを使い、手馴れたようにゴブリンの頭を撃ち抜く。

他のゴブリンも負けじと、剣で斬りかかる、弓を射つなどする。

しかし、そんなゴブリンの抵抗はむなしく、10のゴブリンはわずか1分で頭を撃ち抜かれ、ポリゴン片へと変えられた。

カズ「いやあー、すっかり疲れたなあ」

そういつてカズは宿へと戻った。

カズ「さあてと、パンでも喰うか！」

そういつて、カズはパンを食べる。

噛んでいるうちに口の中の水分が減り喉が乾く。

カズはゴクゴクとコーラを飲む。

カズ「ああ、コーラうっめえ！」

飲み干されたコーラの入っていたペットボトルはゴミ箱の中に突撃するかのごとく、入っていた。

「あとかき！」

黒野刻斗です。

皆さん楽しんでいただけたでしょうか？

書くことが少なすぎてオワコンですwwww。

規定字数に全然とどかないのであとかきにしました。

因みに僕は、こうみえても、今年で中3ですwwwwww。

受験やりたくねえwwww

と、まあ、こんな感じでやらせて戴いてます。

皆さん、これからもよろしくお願いいたします！

下の番外編も是非呼んでね！

「番外編 01」

カズ「おう！キリトじゃねえか。」

キリト「カズ、なんだ？」

カズ「しっかし、まさか、ここでキリトに合うとはな。」

キリト「ここってどこだよ？」

カズ「ここってどこだよって、番外編だろ」

キリト「S G O 番外編、おめでとう！」

カズ「いやっ、あのお、今更かよ！」

キリト「ゴメン！ゴメン！ゲメン！ゲメン！」

カズ「ゲメンって何だよ？」

キリト「ゴメンと同じ意味だお W W W W」

カズ「何故に？てか、おいっ！どーした？」

キリト「どーもしてないおwww」

カズ「キャラ崩壊乙www」

キリト「ねーか、おいっ！」

カズ「その反応に、マジ草生えたwww」

キリト「イイジャマイカッ！」

と、言うことで、皆さん、今後も宜しくお願いしました！

07 二年後

今回は、とりあえずで二年後を書きます。

カズ「今日であの日から、二年後かあ」

サクヤ&キリト「そうだな」

ミュカ「えっ！もう二年もたったのお」

カズ「早くこの、クソつたれなゲームをクリアしねえとな」

サクヤ&キリト「ああ、そうだな」

カズ「ミュカ、今は何層までクリアした？」

ミュカ「ええと、確かここが315層だから・・・今は314層だと思うよ」

カズ「残るは、此処と4層だけか・・・」

そして、カズたちは迷宮区へと向かうのだった。

カズ「氣いつけろ！上だっ！」

すると、上からドラゴンが突然、現れた。

ドラゴン「グゴオオオオオオ」

ドラゴンは上から、爪を使った強攻撃を繰り出した。

ガギイン_{三三}

運良く、サクヤとキリトがドラゴンの強攻撃を防いだ。

カズ「サンキュー_{三三}」

ドラゴンは横からの尻尾による、強攻撃を繰り出そうとした。

しかし、運良くカズの援護射撃が当たり、尻尾の強攻撃は防がれた。

ドラゴンは、咆哮を発した。

ドラゴン「グオオオ」

キリト「次は俺の番だぜっ！」

キリトは迷わず、ユニークスキル「二刀流」の奥義「スターバースト・ストリーム」のプレモーションをとった。

キリト「くらえっ！スターバースト・ストリームッ！」

キリトのスターバースト・ストリームの24連撃がドラゴンへ襲いかかった。

ドラゴン「グギャオー——」

ドラゴンは、キリトのスターバースト・ストリームによって、爆散していった。カズたちは迷宮区を一階、二階、三階と猛スピードでクリアしていった。

カズ「ここが、迷宮区四階か……」

カズたちは迷わず、迷宮区四階の直線的な道を真っ直ぐ歩く。

カズ「む……」

カズたちの前にボス部屋へと続く扉が居た。

カズ「これが、ボスルームへと続く扉か……」

キリト「やっと着いたか……」

サクヤ「フーハハハハハ！ やっと着いたぞっ！」

カズ「おい、サクヤ、どーした？」

——あとかきイイだおおお——

今回はこの辺で終了スルゼエ！

次回は考えてるから、みんな楽しみに待っていてくださいませえ！

ヤベエ！1000字もやるのつれえわあ！

後、俺、実は、この小説、P S v i t aで書いてるンダぜ！

俺のP S i d、知りたいだろう？

俺のP S i dはあ！

B a r e r u t a i t o r

読み方はあ！

バレルタイター

みんな、フレンド申請宜しくお願い致します！

1 ※この小説の作者、及び、B a r e r u t a i t o rは中3です。

2 ※この小説の作者、及び、B a r e r u t a i t o rはネット充です。

3 ※この小説の作者、及び、B a r e r u t a i t o rは男です。

以上の事に気を付けてフレンド申請をしてください。

08 加速仮想世界のエンディング

V i t a のアカウントかえます！

カズ「今日でオワコンだっ！」

今日は S G O にログインしてから3年がたった日だ。

カズ「さあてと！ラストボスバトルにいきますかあ」

ざわざわ

ざわわ

カズがそういった瞬間、周りがざわめいた。

ボスバトル

カズはドミネーターでボスを撃った。

ボス「グハハハハハハ」

ボスの大きな咆哮がボス部屋が全体に響き渡る。

ミユカ「ドッキングスロータースキル！」

ミユカ&カズ「ディザスターバースト！」

赤と蒼の燐光がボスを穿つ。

しかし、ボスのHPは20%しか減らなかった。

カズ「魂！解！」

カズの周りを白い煙が覆う。

カズ「虐殺銃龍。。。スローター・ドラゴニックドミネーター」

カズの手には赤と白に彩られた銃と蒼と黒に彩られた銃が握られていた。

カズ「スロータースキル。。。いや。。。スローターファンクション！死刑執行~~サ~~エ

ゼグキューション・デスエンド~~サ~~エ

ボスは直後、爆散して消えていった。

カズ「やっと終わった。。。」

周りの攻略組の人「おい！殺ったぞおおおおおおおおおお！クリアだあああああああああああああ！」

坊主の男「うっしやあああああ！ゲームクリアじゃあ！ゴルフああああ」

小柄な男「———！」

カズ「よし。。。ガッツ！」

キバオウ「カズはん、おめでとう！」

キリト「カズ！おめでとう！」

アナウンス「スローターゲイル・オンラインはクリアされました！」

町の人「やったああああ！やっとりアルに帰れるううう！」

——二分後——

和爾「帰ってこれた。。。やっとな帰ってこれた」

和爾の母「カズ！やっとな起きたのね」

和爾の父「カズ！よく頑張ったな」

和爾「サクヤは？」

和爾の父「サクヤ君ならもう起きてるぞ！」

和爾「え！マジで？ガチメに？」

和爾の父「ああ、マジだ！ガチメだっ！」

隣のカーテンが開いた。

シャー。。。

和爾「?!」

サクヤ「カズだあ！」

和爾「サクヤじゃん！」

サクヤ「てか、退院したらどっする？」

和爾「とりあえず。。。VRゲーをまたやる！そんでもって！VRゲーで最強にな

るっ！」

サクヤ「俺も最強になるう！」

キリトが病室に入ってきた。

キリト「よう！久しぶりだな！カズ、サクヤ！」

サクヤ「あれっ！キリトじゃん！」

カズ「何だ何だ！キリトじゃねえか！」

サクヤ「そういえばだけど。。。キリトは退院したらどっする？」

キリト「俺は…VRMMORPGで最強になるっ！」

カズ「俺の丸パクリだろ！」

サクヤ「もしかして、さっきの話しきいてたの？」

キリト「んなわけねえだろ」

これにて！END！

作者からの伝言！

みんな見てくれて、ありがとう！

あとそれと！

v i t aのアカウント変えます！

SGO-ChaOs.LOVe-カオス・ラブ編

アブノーマルなラブコメのスタートオオオオオオオオオオ！

皆さん久しぶりですねえ！

今は高校１年生に成りました！

さあ…予告の通り！

恋愛が始まりますよお！でも、普通の恋愛じゃないかもね！

彼が入学したのは才能が有り伝説を繋ぐ権利を持つ者だけが入学を許される政府が設立した執行官養成学校第一方面だった。

入学してから幾らも立たないというのに恋を巻き起こす。

入学して早々のある晴れた日の今日…主人公の緋ヶ咲和爾は校舎の中でも人気の無い所に居た。

そこは、S G O という夢の欠片すらない現実の空間だった。

そこには何も言わないベンチと独り、何かを呟く緋ヶ咲和爾だけの空間だった。緋ヶ咲和爾は不意に「執行に終わりは無い…残るのは愛しさか正義か悪意か…」と呟く。

その空間の名は

——雲すら見当たらない青空の中庭——

そして、彼の発した一つの呟きは衝撃的な恋を生む。

独りの女が近づいてくる。

その女は胸を大きく揺らしながら近づいてくる。

その女の名は…~~\$\$\$~~黒屍斬ルナ…クロカバネキリ・ルナ~~\$\$\$~~

その女はおもむろに呟く。

——「やっとう。会えた！貴方に逢いたかった。」

直後、その女は、黒屍斬ルナは抱きついた。

勿論だが、胸という巨峰を押し付ける形に成った。

しかし、緋ヶ咲和爾には彼女との面識は無い。

だが、黒屍斬ルナが彼を知ったのは新聞での記事だった。

緋ヶ咲和爾は当然ながら彼女の事を知らないので驚きを隠せなかった。

そして、緋ヶ咲和爾は言う。

「だ。。。誰ッスか？。。。俺に何の様ッスか？」

しかし、彼女は、黒屍斬ルナは。。。ただ抱きついたままこう言う。

「好きです。。。凄く。。。好きです！」

彼女は抱きついたままで依然として巨峰の様な胸を押し付ける形には変わりが無い。

彼は言う。

——「何で、俺何かが好きなんだ？他にも俺より良い奴が居るだろう」——

突然の事に驚きつつも冷静を保とうとするが巨峰の様な胸に…

どうしても目がツイツイ行ってしまう。

そして、しばらくの硬直が続く。

やがて、彼は彼女を抱きしめた。

彼女は言う。

「和爾君！ありがとう！大好き！」

未だに自己紹介のされていない女に抱きつかれている緋ヶ咲和爾は小声で言う。

「あ。。。ありがとな！」

そして、彼女は自己紹介を始める。

「わ。。。私は。。。その、えっと。。。黒屍斬ルナです。。。和爾君の。。。す、す、スッ！ストーカーをしています!!!もし、お付き合い出来たら。。。え〜と。。。その、嬉しいです。。。大好きです。。。和爾君！」

アブノーマルな自己紹介は幕を閉じてSGOの英雄と謳われた緋ヶ咲和爾の自己紹介が始まった。

「俺はSGOの英雄とか何とか新聞で騒がれてる緋ヶ咲和爾だ…宜しくな！ルナちゃん！」

そして、いつの間にか彼と彼女にはお似合いムードが流れていた。

これから始まるアブノーマルな恋になるとは知らない二人だった。

皆さんどうですか？

僕が書くラブコメは普通じゃないんですよ！

まあ：エッチな雰囲気とか面白い要素たっぷりのラブコメにしますから！
ご期待下さい！

また、読んで下さった方々には深くお礼を申し上げます！

暑い夏ですが！皆さん一緒に頑張りましょう！

スローターゲイル・オンライン -S l a u h t e r G a l e・O n l i n e-

著者 黒野刻斗

発行日 2019 年 7 月 1 日

ハーメルン -SS・小説投稿サイト-

<https://svosetu.org/novel/116911/>